



特別
イ 4
3163
199



右如奧書內宮祔宜等常之外宮者非

國常立身而御食津神豐寧氣壯命也終申之

公所當秋七月十日於下勅守源輝朝臣之前

一祔宜常有其祔宜條彥六祔宜初彥權祔宜晨名

與內宮一祔宜守相五祔宜守復九祔宜守有對座

論此事粗以舊記令返若謂猶以徐目可申上而

退去其後撰此書從一祔宜獻于奉行所一旦或

人來而有問之而亦未見其書而不能答故乞求



延寶神主令騰昇訖



寶永十條



兩宮御名義說

外宮者天神七代乃大祖國常立尊之内宮者地神
五代乃大祖天照太神之國常立尊者混沌未分乃
時一靈動て天地開け神靈其中アミミ化生て常立
て止る心ゆゑ國常立尊と申奉る此神天地
万物の主なり故に天御中至尊と申奉る天照
太神と日神大日靈貴と申奉る其德光日月

象カク々々天地丹照チリトシ徹トク心故コト日月神大日靈貴天照太
神と申奉心ココロ之兩宮ニ御鎮座ミコトノカミ之ノ宮号ミヤナヒ
と外宮内宮と申豐受天照太神宮天照太神宮と申奉
心ココロ之水者外暗クラ心ココロ之内明アカ心ココロ火者外明アカ心ココロ
之内暗クラ心ココロ豐受天照八御名義是其義也宮乃字
と添ソヘ進シメ八御宮号と云々添ソヘ進シメ八御神名と云々之
國常立尊ハ一水乃德トク心ココロ化生カクシ心ココロ給タマフひく男神ノカミ
心ココロ陰德イントク心ココロ天照太神ハ伊勢諾伊勢再尊の產生ウツク

心ココロ乃ノひく女メ躰カラダ之ノ日象カク心ココロの御神徳ミコトノトク心ココロ故コト陽神ヨウノカミ
也男ノカミ躰カラダ心ココロ陰神女インノカミ躰カラダ心ココロ陽德ヨウトクハ陰陽インヨウ心ココロ
根ネ心ココロ天地日月運ウツク心ココロ心ココロの理教リキョウ此コト外ソト心ココロ
心ココロ古語拾遺コトワザ心ココロ外宮ハ祖内宮ハ宗ムネ心ココロ倭姬命ヤマトヒメノミコト
世紀シキ心ココロ伊勢イセ心ココロ所皇太神宮ハ則スなは推オシ群神宗ムラカミノミヤ惟ただ百
王祖也オノミヤノミコト心ココロ心ココロ二宮ハ義ヨシ心ココロ云々

右據タテマ飛鳥紀阿波羅波命記大田命訓傳倭姬命
世記神皇系圖神皇實錄神名祕書元々集正

統記書之

御氣津神辨

内宮神宮方々豐受太神者御饌都神中して食
物と主ところ此神多くと舞^{イミハカ}憚心事多くと
けり御氣津者水徳乃名多くとソ人事神書往々
子載て特子彼非説と厭^{イミ}書とと數多り彼
神宮乃輩いづく其書人々是と蔽^{カサ}て非
説乃まづ子まぢりり内宮と揚て外宮と墮^{ヲト}

す例乃我慢偏執より出り事多くと源親房卿
奥子是と別くまじり其説子御氣津^{ミケ}者水徳号
也古語天津御氣國津御氣或又御饌津書之
御氣津者古語也水者畧語之近頃乃林道春神
杜考子之亦云事り豊受宮國常立尊也古時
調御膳干此宮每月送内宮而神龜年中建御膳^{ミケ}
殿干外宮又同献内宮是以雖有曰御膳神之説有
御食^{ミケ}御氣^{ミケ}之二義^ケ訓相通^ケ陰陽元初之御氣^{ミケ}而

又有天狹霧國狹霧之名天孫尚在相殿何得言
御膳神哉抑亦天照太神の御託宣トクノノコト也吾祭奉仕
時先可祭止由氣太神宮也然後我宮祭事可勤
仕也食物入神ウケル也トクノノコト御託宣トクノノコトあり
返しニ事と知ル心トもトして云々
きりハ私意ハ也ト

右據神皇系圖神皇實錄秘府實錄神名祕書
神祇本源元々集正統記書之

内宮御饌於外宮調備説

垂仁天皇廿六年天照太神五十鈴八川上御鎮座
乃時外宮度會姓先祖大若子命ヲカガヒノミコトと大神主ヲカガヒノミコト子定め
々々切々次子し若子命介佐布命サキフノミコト介佐布命
彦和志理命ヒコノシヅメノミコト和志理命事代命コトシロノミコト阿波羅波命大
作々命累祖九代大神主ヲカガヒノミコトて内宮御仕奉
け乃雄略天皇廿一年天照太神乃御託宣トクノノコト也
乃豊受太神と丹波與佐宮ヨサノミヤ山田原御鎮座

うし奉りしける時大佐之命と以て兩宮乃大神主
か定めぬ初く仕ふる其後御倉命佐部支命
野古命し乃古命神主飛鳥水通小事加味小庭伊
志牟麻呂調又遲良馬手吉田知加良富栢志初大
御氣凡て十九代二所太神宮乃大神主と云りて
兩宮乃神事と兼行ひけり外宮御遷座より
後ハ御饌と外宮中炊て外宮中供進且内宮一日別
中賣運モナハコいて瑞垣御門乃下中供進ツクりて多う聖武

天皇神龜六年正月モナハコ御饌と賣モナ参りてワケ中浦田
山乃迫り中死穢り此不浄乃答中よりて天皇
俄中御腦ありせり故中豊受神宮中新中御饌殿
と建く爰中して兩宮の御饌と供進して内宮一
賣運モナハコ人事と割サマりてさけりてとより北方内宮
乃御饌と外宮中かかて供進する事今尚志
謹而按する中天照太神天上中御衣と齋服殿

小織コオリと申す事と神代卷子記より又五十鈴
宮ミヤ御鎮座よりミヤ多タのノ時倭姫命ニギハヤヒノミコト此御計
かカ八尋ヤイロノ機屋ハタと建タく八千之姫命ヤチノメノミコトと
太神オホカミ乃御衣ミカドと織オリくミカドのノ事天上アマノ乃
いイまマ子コ義ヨシ乃ノとト倭姫命ニギハヤヒノミコト世紀ヨシ子コ載ノリりミ
より後神ノチノカミ機殿ハタノミヤと別所ワカヘノトコロ乃移ウツリく建タく太神オホカミ乃
御衣ミカドと織オリくミカドのノ毎トシ年トシ四月十四日シツノヨナナ乃供進イハヒせ
し乃神事カミノコトなり今御衣ミカド此神事カミノコトと云是コト

天照太神女アマテラスノカミメノメノカミ乃御神ミカド之ノ其御德用ミカドノチカラより
然シカゆヘ古コより御衣ミカド乃神事カミノコト外宮ソトノミヤ中ナカより天照
太神オホカミ御鎮座ミカドノミヤ此當ココロ初ハジメより度會タカヒ姓シ乃ノ累祖トシノソノ大神オホカミ
主ヌシとトより日ヒ別ワケの御饌ミケと供進イハヒより豊受トヨウケ大神オホカミ
御鎮座ミカドノミヤより御饌ミケと外宮ソトノミヤ乃炊ヒキて外宮ソトノミヤ乃
供イハヒ内宮ウチノミヤ乃賣ウツ運ハルひハル供進イハヒより其後御饌ミケ殿ノミヤ
と建タくより兩宮フタノミヤ乃御饌ミケと外宮ソトノミヤ乃供進イハヒより
事是亦水德ミヅノチカラ乃御德用ミカドノチカラより米穀コメノク水氣ミヅノキより

御神ノ

己化生する由多し食服乃二箇もの所より兩宮
乃御神徳子隨順する事自然此道理也

右據飛鳥記倭姬命世紀林直補仕例文詔の
師波汰文荒木田度會系圖神宮雜事永仁
四年注進狀書之

諸祭可以外宮為内宮之先御託宣說

雄略天皇廿一年十月天照太神倭姬命御託宣有
て明秋七月丹波國與作此奥井原より豐受太

神と度會山田原御鎮座より天照太神弟
一攝神多賀宮と豐受太神宮と奉副從給大神
主物忌職相足し御饌料神寶祭器まゝ齋備
天照太神重て御託宣す吾祭奉仕之時先可祭止
由氣太神宮也然後我宮祭事可勤仕也と有り
故に諸祭事以止由氣宮為先詳に神紀に載り
昔齋内親王乃御座候る時月次祭六月十六
日外宮神事と御勤ありて同十七日内宮神

事と御勤りナシナ神嘗祭九月十六日外宮と御
勤りして同十七日外宮十二日此月次祭と又
同し今以て月次祭公卿例幣勅使臨時由奉幣
使先外宮と御勤め次外宮と御勤り頃奉再
興乃二月祈奉祭此神事ハ兩宮同日多れ外宮
と先外勤め次外宮神事と相勤り也是殊天
照太神此御託宣と守りて今外違事と
故ハ兩宮遷宮ハ事持統天皇御宇兩宮正遷宮

正遷宮より以後廿年と式年より九月と式月と
十五日と外宮式日より十六日と内宮式日と定
りしより今の中世まゝ此例を承りて
都鄙乃ツキ急劇ツキより漸假殿遷宮と嘗て式年
式月乃法と遠く入り慶安年中ハ正遷宮式日
外宣下ありしと内宮神宮當時ハ御吉例も遠く
と敬訴ゴウり故亦日時と御改ハ延喜式文外載
式日と内宮より申さるるも當時ハ御吉例より

云ち〜〜怪オモシひつゝ母堪ツり

右據飛鳥紀大田命訓傳倭姬命世紀外宮儀式

帳内宮儀式帳延喜式室基本紀言遷宮次第記書之之

内宮神宮論兩宮之尊早高下辨

内宮神宮常母内宮とりて揚て外宮と以隨

外宮と内宮同烈母以とりてとりてとりてとりて

我慢偏執との解するとやれあらずともともともとも

乃兒童と點頭ツツつと一言訣有夫外宮此神者國

常立尊内宮乃神者天照太神也外宮者陽神

也と水徳内宮者陰神也と火徳外宮

乃神者天神也と高く内宮乃神者地神也也

内宮事同母象と〜〜尊く外宮此神者月母象と〜

早く外宮此神ハ男也早く内宮此神者女

也と早く外宮乃神者先母出生〜

後母山田原母御鎮座あり内宮乃神者後母出生

〜〜先母五十鈴宮母御鎮座あり尊早高

下是自々陰陽對待乃理々々々内宮ハ東方御
鎮座外宮ハ西方御鎮座日と東子祭、月と
西子祭乃理々々々内宮ハ水と前子祭五十
外宮ハ山と前子抱高倉内宮ハ裏中山土地
狭く外宮ハ表中土地廣く是皆自然此理
天地陰陽、日月東西水火男女内外廣狭山
水、此乃々々々天地陰陽互子根々々々偏廢々々
是即一而二二而一と云々兩宮神道此真蹟之誰々

其間子我慢偏執と容人ヤ柳亦宮殿乃制度と
陰陽奇偶乃高々々内宮者荒魂神と北子祭と
其土地本宮より早く外宮ハ荒魂神と南子祭
と其土地本宮より高し相殿乃御座東西賣殿
乃方位し亦相表裏す千木片カタ棧ソキ外と云々内
と云々堅奠木と内宮ハ十枚外宮ハ九枚御階
と内宮ハ十級外宮ハ十一級と云々猶其餘の制
度と皆奇偶表裏々々神記子内外兩宮者摸天

小宮ワラミヤ而ナラヒ雙座イミスノ之形カタチといふ作ツクりヨリ名

右據チ神代卷大田命訓傳阿波羅波命記

飛鳥紀神名秘書倭姬命世紀書之

二宮一光說

飛鳥紀丹國常立尊と天照太神乃御徳用と解し
奉心乃先國常立尊と奉て目かく視耳かく聽乃
外元氣空虚乃満て心乃神靈あり有やと思ハ
寺相寺形かりて取とむる體あり故に人民と慈

也一憐ミ之万物と利養一養ハ光と和け塵
子同シ一うシて災とけし難と濟ス其表アラハ名
と天照太神と申奉乃多し是則國常立尊乃
御神靈發して作用と多す其作用ハ即天照
太神と申奉乃多し一人々一箇此上も亦是
固有乃神靈ハ國常立尊乃御神靈乃異多し
ととと人々私欲ミハ此御舍ミヤカ乃戸と開トキて開ヒラく事
物し若夫御戸と開て國常立と拜し奉乃乃兩鏡

相合て影うつるの地也、
一髪と容(う)るは是と神明とと神聖とと、
一宮一國常立尊天照太神と分座し給(た)體用
一致ゆして更廿二ツ、是島(よ)かして二二也、
一宮一光と、是也、一區一城、
社と、此理(こと)外(ほか)多(おほ)く、
照太神合(あ)明(あ)齋(あ)徳(あ)と、
天照と二宮、乃(すなは)ち通稱(と)と、
す亦元(もと)之(の)集(あ)集(あ)神(あ)神(あ)本(あ)本(あ)源(あ)源(あ)也(あ)也(あ)天(あ)天(あ)照(あ)太(あ)神(あ)ハ(あ)二(あ)宮(あ)此(あ)此(あ)通(あ)通(あ)稱(あ)多(あ)しと記(あ)せり、
吾(わ)神(あ)道(あ)甚(あ)深(あ)秘(あ)奥(あ)舉(あ)て(あ)盡(あ)す、

右據(よ)飛鳥紀(あ)元(あ)々(あ)集(あ)集(あ)神(あ)神(あ)本(あ)本(あ)源(あ)源(あ)書(あ)之(あ)

度會(あ)姓(あ)奉(あ)仕(あ)干(あ)兩(あ)宮(あ)說(あ)

皇孫(あ)尊(あ)大(あ)八(あ)洲(あ)國(あ)天(あ)降(あ)る(あ)の(あ)時(あ)度(あ)會(あ)姓(あ)乃(あ)大(あ)祖(あ)天(あ)村(あ)雲(あ)命(あ)供(あ)奉(あ)忠(あ)勤(あ)あり、
子孫(あ)相(あ)續(あ)相(あ)養(あ)て(あ)第(あ)七(あ)代(あ)大(あ)若(あ)子(あ)命(あ)至(あ)り、
天照(あ)太(あ)神(あ)乃(あ)御(あ)宮(あ)所(あ)

未^レ久^ク人^々國々御遷幸ありける時^ニ供奉^ス
とぬひりて^レ仁天皇御宇^ニ今^ノ乃^ハ内宮御鎮座
たりし時大若子命と大神主^ニ定め賜^ハり次^ニ
し若子命^ハ介佐布命^ハ小介佐布命^ハ彦和志理命
小和志理命^ハ事代命^ハ阿波羅波命^ハ大佐佐命^ハ累
祖九代大神主^トなりて内宮^ニ奉仕す雄略天皇
乃御宇豐受太神與^ヨ佐^サ宮^ノなり今^ノ乃^ハ外宮^ニ御
鎮座^スなり^レ時大佐々命と二所太神宮^ト
神主と定め賜^ハり^レ兩宮と兼て奉仕す其後御倉
命^ハ依^キ部^ノ支^キ命^ハ野古命^ハし^レ乃^ハ古^ノ命^ハ神主^ト飛鳥^ノ水^ノ通^リ
小事^ハ加味^ノ小^ノ連^ト伊志^ノ宇^ノ麻^ノ呂^ノ調^ノ父^ノ遲^ノ良^ノ吉^ノ田^ノ千^ノ賀^ノ
良^ノ富^ノ根^ノ志^ノ初^ノ大^ノ御^ノ氣^ノ凡^ノ十九代二所太神宮^ノ乃^ハ大神
主^トなりて兩宮と兼て奉仕す惣而^テ廿七代度會^ノ
神主兩宮乃^ハ神事と勤^メの行^ハひけり天武天皇元^ノ年
乃^ハ大神^ノ主^ノ入^リ職^トと改^メて^レ祢^ノ宜^ノ一人^ツ兩宮^ニ置^キ給^フ
然^レ猶^モ兩宮祢^ノ宜^トなり^レ乃^ハ度會^ノ姓^トなり^レ其^ノ内宮^ニ祢^ノ

宜八度會乃大神主吉田子志己夫外宮乃称宜八
度會乃大神主御氣子兄虫エヒシ志己夫シコフ妻子メ
トクヲトモ荒木田ヲトモ九子野守ノモリと以內宮称宜子補
々々乃是上々收宮ハ荒木田外宮ハ度會と始て
相分アハまけり野守ハ天見通命アメノトヲ上々ハ世の後胤ニ
其間乃氏族或ハ物忌子補モノヨミノコ或ハ内人子補ウチノヒトノコ也
見ミ上々荒木田神主度會神主と二流ニリウ分ワケて來り
とハ上々七度會神主ハ外宮御饌殿ミケノ也乃朝夕
乃御饌と二所太神及相殿神ミケノ也供進イコウ一奉り兩
宮此詔ミコトノりと啓ヒラく天下國家と禱イタり乃乃
御祈禱と兼行ミコトノ也乃

右據飛鳥紀大田命訓傳倭姬命世紀称宜補
任詔ミコトノの師汝汝文荒木田系圖度會系圖神德畧記書之
謂イハ豐豆受太神者皇孫尊之供奉神辨

舊事紀小使天大玉天兒屋二神陪從天忌穗耳尊
以降之時天照太神手持寶鏡授天忌穗耳尊而

有るしと思ひけり此頃ハいふ事と云ふ
らしけりと云ふ言語と絶しぬ今此内宮神宮
方乃昔此輩母其志操文枚乃くまて首と
けりやと坐母浸くそけり彼大田命と申八天
照太神御鎮座より一人時母參相て地主と
ありし三時乃祭御衣乃祭時々幣帛使あり
時大玉串八重神と儲て供奉忠勤ありし
神人あり雄畧天皇御年十二年母齋内親王
及い神主部物忌等母神宣訓傳せりと兩宮大
神主乃大佐々命同彦和志理命同御倉と荒木
田乃先祖大物忌酒目押の等上奏せりと詔書
と賜りけりと眞書連署あり其後兩宮乃神主飛
鳥是と傳てて記すと又眞書より大田命八俣田
彦命乃首齋母して宇治土公王串内人乃祖神之
初乃嚴重乃書と内宮神宮用取しと云ふ不審
乃其一也

右據^テ文治元年大田命訓傳書之

阿波羅波命紀此記ハ内宮ハ大神主阿波羅波命

其三男乃々子命四男し乃子命ト内宮大物忌荒木田ツレト押ツレト赤冠

荒木田ツスリ藥ツスリと五人して録頭ツスリと奥書連ツスリ者あり

阿波羅波命ハ安康天皇御宇ハ大神主乃々外宮

御鎮座以前ハ人乃々外宮御鎮座ハ事と紀セ

乃五人ハ人数乃々不審と云人あり外宮御鎮

座者阿波羅波命ハ二男大佐々命乃時乃々島

大佐々命兩宮ハ大神主と乃々三男乃々古命四

男し乃子命相共乃兩宮ハ大神主と乃々けとハ

父ハ訓傳と兼て筆作ツスリせ乃父ハ名と五人

乃筆作の中ハ記乃々又ハ阿波羅波命晩年

乃及て三男四男と相共乃筆作乃々一内宮

神宮方兩宮ハ大神主と吾方乃先祖ハ押ツレト藥ツスリと

五人一筆作乃々記と用乃々不審

乃其二也

右據河波羅波命紀度會荒木田姓系譜書
之

飛鳥紀此紀八繼體天皇御宇兩宮北大神主飛鳥
父し乃子命伯父大佐々命乃奉仕と美續て兩
宮乃神秘と記さる書也天照太神御鎮座乃時
度會姓乃先祖大君子命大神主と云うて其次々
九代皆内宮一宮北大神主と云うて飛鳥迄六六代
兩宮乃大神主と云うて然飛鳥紀と内宮神主

（内宮御鎮座者大佐々命兩宮ノ大神主ト云）

とて用ひしこと不審乃其三也

右據飛鳥記度會姓系譜書之

倭姫命世記此紀八兩宮乃大神主飛鳥五代の先
祖兩宮乃大神主御氣傳（書ヤ）と神護慶
雲二年二月七月中林宜五月麻呂撰集之（サツキニ）と
真書ヤ（サツキニ）五月麻呂ハ神德天皇光仁天皇桓武
天皇乃問此人（サツキニ）して外宮林宜（サツキニ）然と内兩宮
乃大神主御氣乃傳書（サツキニ）と五月麻呂撰集（サツキニ）

とわりのりしハ其元ハ御氣ミキより出たり外宮神主
ハ筆作とよりのりしハ不審其四也

右據倭姬世紀儀式帳度會姓系譜書之

内宮称宜荒木田守晨二称宜より一時永正紀撰
述より母上卷ハ專外宮称宜撰述乃文保紀と
以て服紀フキキ令シラと紀下卷母ハ神宮ハ禁忌古實と
記より今ハ内宮神宮法と此母取すと事より
然母下卷母倭姬世紀ハ全文と引用内事一ヶ

條大田會訓傳乃全文と引用内事二ヶ條飛鳥
紀乃全文と引用内事一ヶ條其外外宮一称宜
度會行忠二称宜より一時撰述より古老口實傳
乃全文と引用内事五十一ヶ條同者文一ヶ引用
内事十三ヶ條より傳紀本紀世紀ハ兩宮神主乃
手母出り書よりハ免角母及ハ文保紀古老口
實傳ハ外宮神主乃撰述より事と如此數十ヶ
條引用ハ守晨ハ我慢偏執乃心よりり也

ゆくり〜今乃内宮乃神主ハ彼令ハ親此盗一物
と食入親ハ盗リとらと我ハ盗ますと〜ハハ
〜不審の其五〜

右以倭姬命世紀大田命訓傳飛鳥紀文保紀

古老口實傳與永正紀可保見

内宮神宮方兩宮乃大神主と吾先祖乃輩と相共

并撰述〜三部秘書及い倭姬命世紀と用まり

こと正〜先祖乃罪人也其罪ハ行〜乃歸之

若曲て月い〜乃〜天照太神大和國と出

〜乃〜倭姬命國々所々〜名と賜ハ神社

と定め〜乃〜靈區神蹟奉て計〜終乃

柳船中り〜五十鈴川中入〜言上〜乃五十

鈴原中齋柱立て宮造〜乃〜種々此神業

倭姬命ハ御夢此喻〜又神寶と作〜大神主

と定め宴樂〜舞歌猶倭姬命此雜々乃事

業伊雜方真名鶴乃靈異核除此法神事此定

わたり猶^{ツト}あ^メの事^{アミ}整^タ敷^タ多^クありけり抑^レ亦^レ左右
乃相殿神荒祭宮高宮と祝祭^ルなりけり外
宮御鎮座ありてり相殿神と高宮とと外宮
に移し^ルなりけり猶別宮酒殿御倉神御門開神
御門^{ミカド}入神^{イリガミ}等^トま^ニ定^ムる^ルなりけり事^{コト}等^トハ三部秘
記世紀と離^レる^ルハ^ハつ^ツま^ニの書^{カキ}や^ク識^チ得^ズ安心^セ
心^{ココロ}や不審^{フシマン}ハ其^レ六^ノ也

右據大田會訓傳飛鳥記倭姫世紀元々集書

之

内宮神宮常^{ツナミ}謂^フ以^テ舊事紀日本紀三部本

書^{カキ}為^ス先^ニ辨^ス

舊事紀古事紀日本紀ハ我^レ日本^ノ正史^{ナリ}多^ク誰
は是^レと仰^ルる^ル人^ト三部^ニ天照太神^ノ御事^ノ記^シ
け^レ其^レ記^シと詳^クなり^キハ悉^ク天上^ノ事^ノあり^キ
國土^ノ事^ノあり^キ國土^ノ事^ノあり^キ御座^ニ
て詔^{ミコトノコト}と下^ルる^ルなり^キ舊事紀^ハ天照太神

乃五十鈴宮子御鎮座と記と記セ事一所
其所記ハ文字數都て十五字古事紀日本紀亦相同
天照太神五十鈴川上子御鎮座と記セ事一所
一所其文字數都て七十四字二書と合テ八十
九字ナリ御鎮座ハ前後種々ハ神業ナリ相
殿別宮靈區神積種々ハ此事業ト識得
辨明ナリ云々ハ其ハ千載子殘ト談ナリ
り

右據舊事紀古事紀日本記書之

今度外宮御種代御再與之儀御願申上候處內宮
神宮支之其上外宮御神德之儀共種々申掠候就
其為以來外宮御神名御神德之儀神書之上相考
書付置候^也可然之旨依被仰聞候神書之趣粗
令抄出奉備高覽候事如件

寶永六己丑年八月廿四日

外宮

神主中

長官卯

進上
渡邊下總守様

右之奥書也。進上佐野豊前守様と書替
同七年庚寅二月日着上者也

右二卷御役所下四袴宜身盈八神常包河崎延貞持冬下

御奉行御兩所様江 御長官常有
被着上候寫

寶永七年庚寅三月一日佐久目辰名
借申候

從四位上度相人

1800



